

葛飾北斎

江戸中期から後期にかけて 70 余年にわたり活躍した日本を代表する浮世絵師。また、印象派をはじめ、近代以降の世界の美術に多大な影響を与え、今日でも国際的に高く評価されている。江戸本所の生まれ。「勝川春朗」を皮切りに「画狂老人」など、30 余りの号を名乗ったことや転居を 90 回以上したことでも知られる。画風も次々と変化、変転させながらもその時その時に多くの名作を生み出している。絵の種類も役者絵から美人画、風景画、花鳥画、挿絵、版本など、幅広い分野にわたり、3 万枚以上の作品を描いた。また、浮世絵版画の下絵のほか肉筆の浮世絵作品も描いている。代表作として「富嶽三十六景」、「北斎漫画」などがある。特に「北斎漫画」は全巻で 3000 を超す図版が掲載され、絵手本としてヨーロッパでは「ホクサイスケッチ」と呼ばれ、画家たちに大きな衝撃と影響を与えた。娘の葛飾応為も浮世絵師である。